

シネマ

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

Ciné-là



No.102

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟=FIAPFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAPFに加盟しています。



インドネシア映画特集

東南アジアの大国
インドネシアの
80年代から近年の
作品を上映。



上映作品

- 囚われの美女
- 口口・ムンドゥット
- オペラ・ジャカルタ
- 母
- ナガ・ボナール將軍
- チュツ・ニヤ・ディン
- 青空がぼくの家
- ヌサ・プニダ島
- 一切れのパンの愛
- 囁く砂
- エリアナ エリアナ

「青空がぼくの家」



ドキュメンタリー映画特集

日本のドキュメンタリー映画史を代表する作家達の特集。



「SELF AND OTHERS」



「アントニー・ガウディー」



「全身小説家」

上映作品

- 海壁 / ルポルターージュ・炎
- 恋の羊が海いっぱい
- あるマラソンランナーの記録
- 東京オリンピック
- 三里塚 辺田部落 / 不知火海
- アントニー・ガウディー
- 安心して老いるために
- 全身小説家 / 旅するパオジャンファー
- SELF AND OTHERS

特集

会期:平成17年 2月2日(水)~2月13日(日)

休館日・休映日は除く

囚われの美女 ロロ・ムンドゥット Roro Mendut

2月2日(水)14:00 2月11日(金・祝)11:00

1982年 / 35ミリ / カラー / 107分 / インドネシア / 日本語字幕付き / 監督:アミ・プリヨノ / 出演:メリアム・ベリナ、W D モフタル

17世紀ジャワではマタラムという王国が栄えていた。ある時マタラムが制圧した小国の捕虜の中にロロ・ムンドゥットという美女がいた。勝利の祝宴で彼女の踊りを見た将軍はすっかり虜になってしまう。映画出演当時まだ高校生だった主演のメリアム・ベリナの美しさと魅惑的な踊り、民俗音楽が素晴らしい。



インドネシア

映画特集

観覧料:500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

定員制・各回入替制。チケットはすべて当日券。前売り券はありません。福岡市在住の障害者の方は無料。

福岡市在住の65歳以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

インドネシアは、80年代までは多く作品が作られたが、90年代に年間数本に激減。今回の特集は80年代から90年代初頭までの8本と、十年來の状況から脱し始めた近年の「囁く砂」「エリアナ エリアナ」を含め10本の傑作・秀作を上映。

おすすめ チュツ・ニャ・ディン

Tjoet Nja' Dhien

1988年 / 35ミリ / カラー / 133分 / インドネシア / 日本語字幕付き

監督:エロス・ジャロット / 出演:クリスティン・ハキム、スラムット・ラハルジョ・ジャロット

2月4日(金)14:00 2月12日(土)14:00

19世紀後半のインドネシア。当時インドネシアはほとんどがオランダの植民地でした。その中であってスマトラ島北部のアチェ王国は独立を保っており、1873年にオランダがアチェ王国に宣戦布告して以来、両者の激しい戦いが続いていました。そしてアチェ王国の有力者であった貴族のトゥク・ウマルが戦いに倒れた後、トゥク・ウマルの妻チュツ・ニャ・ディンは夫の意志を継ぎ、戦いに参加します。彼女の誇り高さ強い意志はアチェの人々を団結させ、彼女は次第にアチェ王国の精神的な支柱となっていきます。

本作はインドネシアの歴史の中で独立戦争の英雄として称えられる女性チュツ・ニャ・ディンの半生を見事に描いた作品です。アチェ王国は古くから東西貿易の港として栄えた王国で、インドネシアで最初にイスラム教が伝来した場所でもあります。その誇り高さゆえアチェは現在でもインドネシアからの独立運動が盛んに行われています。チュツ・ニャ・ディンはお札に印刷されたり、ジャカルタの通りの名前になるなど現在でも敬愛される存在です。

チュツ・ニャ・ディンを演じるのはインドネシア最高の女優といって過言ではないクリスティン・ハキム。彼女の夫トゥク・ウマルは、彼女とのゴールデンコンビとして多くの作品に共演したスラムット・ラハルジョ・ジャロットです。監督はスラムット・ラハルジョ・ジャロットの弟であるエロス・ジャロットです。本作はインドネシア映画祭で作品賞・監督賞など9部門を独占、カンヌ映画祭でも評判となり、日本でもロードショーされました。80年代最高の作品と評価を得たインドネシア映画の傑作です。



会期:平成17年

2/16(水) ▶ 2/27(日)

休館日・休映日は除く

収蔵映画
特集

ドキュメン

日本のドキュメンタリー映画史を代表する作家達の特集。

観覧料:500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

海壁

1959年 / 35ミリ / カラー / 61分
岩波映画 / 監督:黒木和雄

ルポルタージュ・炎

1960年 / 35ミリ / カラー / 38分
岩波映画 / 監督:黒木和雄

2月19日(土)11:00
2月25日(金)19:00

「海壁」「ルポルタージュ・炎」は東京電力横須賀火力発電所の建設記録映画。「海壁」が建設地埋め立ての様子を、「ルポルタージュ・炎」が発電所建設から稼働までを追った作品であり、黒木和雄の監督第二作目にあたる。そのダイナミックなカメラワークなどが高く評価された。

恋の羊が海いっぱい

1961年 / 35ミリ / カラー / 20分
岩波映画 / 監督:黒木和雄

あるマラソンランナーの記録

1964年 / 35ミリ / カラー / 63分
東京シネマ / 監督:黒木和雄

2月19日(土)14:00
2月24日(木)19:00

「恋の羊が海いっぱい」はウールが出来るまでを描く科学ドキュメンタリーを、ミュージカル仕立てにした作品。「あるマラソンランナー記録」はマラソンランナー・君原健二の練習風景を追ったドキュメンタリー。この作品完成後、黒木は劇映画監督に転身する。

安心して老いるために

1990年 / 16ミリ / カラー / 152分
自由工房 / 監督:羽田澄子

2月18日(金)14:00
2月26日(土)14:00

日本の女性ドキュメンタリー作家の第一人者である羽田澄子が、老人問題をテーマに取り上げた作品。「痴呆性老人の世界」の続編にあたり、岐阜県の特別養護老人ホームの取材を中心に、日本の老人福祉の現状やヨーロッパの老人福祉のあり方なども紹介、老人福祉現状と問題、今後の課題についてまとめている。

東京オリンピック

1965年 / 35ミリ / カラー / 169分
東京オリンピック映画協会 / 監督:市川崑

2月16日(水)14:00
2月27日(日)14:00

1964年に開催された東京オリンピックを、総監督の市川崑のもと、国内の映画人、作家などが広く集結して作られたドキュメンタリー。一般的な記録映画の枠を越えた、様々な実験を盛り込んで完成した作品は「記録か芸術か」という論争を巻き起こした。



三里塚 辺田部落

1973年 / 16ミリ / モノクロ / 146分
小川プロ / 監督:小川紳介

2月17日(木)14:00
2月27日(日)11:00

新空港反対運動に参加し、反対派の運動に映画によって参加して共に戦うことを目指した小川紳介を中心とする小川プロ。運動が長期化していくなかで小川達の視線は闘争だけではなく、その暮らしと彼らの内面へと移っていく。日本映画史に残る記録映画のシリーズの一つである「三里塚」シリーズの中期の代表作。



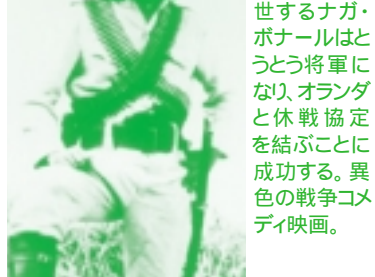
オペラ・ジャカルタ Jakarta Opera
 2月3日(木)14:00 2月11日(金・祝)14:00
 1985年 / 35ミリ / カラー / 181分 / インドネシア / 日本語字幕付き / 監督:シュマンジャヤ / 出演:ゾラヤ・ベルチャ、ライ・サヘタビ
 ルムは結婚式の朝、突然姿を消す。彼女は本当に好きな男であるボクサーのヨコの所に向かう。ヨコはでっち上げのレイプ事件の被告として法廷に出ている。ルムの父親の將軍ソニはジャカルタ中を探し回る。様々なエピソードが回想形式で登場してくる。ジャカルタ上流社会の腐敗が執拗に描かれた、巨匠シュマンジャヤ監督の遺作。



母 Ibunda
 2月3日(木)19:00 2月12日(土)17:00
 1986年 / 35ミリ / カラー / 103分 / インドネシア / 日本語字幕付き / 監督:トゥグ・カルヤ / 出演:トゥンティ・インドラ・マラオン、アレックス・コマン
 年老いた未亡人ラヒムには子供達に関する悩みがあった。一つは息子で有名な俳優のフィカルの浮気のことであり、もう一つはまだ学生の娘の交際相手のことだった。母と子供達の交流が描かれ、インドネシア人の家族観が本作には端的に現れている。インドネシア映画の巨匠トゥグ・カルヤ監督の傑作。



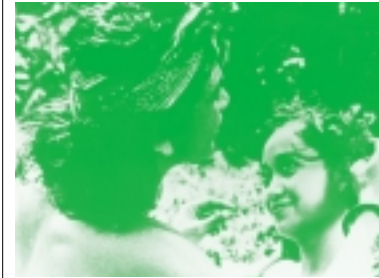
ナガ・ボナル將軍 Naga Bonar
 2月4日(金)19:00 2月12日(土)11:00
 1987年 / 35ミリ / カラー / 108分 / インドネシア / 日本語字幕付き / 監督:M.T.リジャフ / 出演:テディ・ミズワル、ヌルル・アリフィン
 戦後のオランダによるインドネシア支配が始まった1945年。スリで前科者のナガ・ボナルは愛国心からではなく、気楽な気持ちで反オランダ戦に参加する。そして口八丁で出世するナガ・ボナルはとうとう將軍になり、オランダと休戦協定を結ぶことに成功する。異色の戦争コメディ映画。



青空がぼくの家 My Sky, My Home
 2月5日(土)11:00 2月9日(水)14:00
 1989年 / 35ミリ / カラー / 105分 / インドネシア / 日本語・英語字幕付き / 監督:スラメット・ラハルジョ・ジャロット / 出演:バンユ・ビル、スナリオ
 ジャカルタのスラム街で古雑誌を売っている少年ゲンボルトと、金持ちの家の少年アンドリは偶然友達になる。そして二人は家族に内緒でゲンボルトの祖母の住む田舎の村を目指して旅をする。スラム街の悲惨な現実を描きながらも、二人の純粋な少年が貧富の差を超えて友達となり、スリリングな冒険を体験する児童映画の秀作。



ヌサ・プニダ島 Penida Island
 2月5日(土)17:00 2月10日(木)14:00
 1989年 / 35ミリ / カラー / 113分 / インドネシア / 日本語字幕付き / 監督:ガレブ・フシン / 出演:イダ・アユ・ディアステニ、ライ・サヘタビ
 20世紀初頭のバリを舞台にした作品。バリのタナパン王が殺害され、幼い王女バンダン・サリは忠臣イムルダによって身分を隠し漁村で育てられる。成長したバンダン・サリはイムルダの息子ジャヤと恋に落ちる。しかし二人の恋は許されないものだった。89年インドネシア映画祭で最優秀撮影賞を受賞した作品で、バリの文化が美しく描かれる。



一切れのパンの愛 Love in a Slice of Bread
 2月5日(土)14:00 2月13日(日)11:00
 1991年 / 35ミリ / カラー / 97分 / インドネシア / 日本語字幕付き / 監督:ガリン・ヌグロホ / 出演:ティオ・パクサデウォ、アジ・マツサイド
 「枕の上の葉」などの作品で知られる、インドネシアを代表する監督ガリン・ヌグロホの長編映画デビュー作。都市の住むヤングエリート達を主人公として、彼らの心の内面や精神的トラウマを描いた本作は、東京国際映画祭ヤングシネマ部門で受賞、ガリン・ヌグロホ監督は一躍インドネシアのニューウェーブとして脚光を浴びる。



囁く砂 Whispering Sands
 2月6日(日)11:00 2月13日(日)14:00
 2001年 / 35ミリ / カラー / 110分 / インドネシア=日本 / 日本語字幕付き / 監督:ナンドリフェニアハス / 出演:クリスティン・ハキム、スラメット・ラハルジョ・ジャロット
 60年代の海沿いの村。母親プルリアンと娘のダヤは貧しくもひっそりと暮らしていた。しかし反乱軍のため家は焼かれ、村を出た二人は、砂の吹き付ける小屋で薬を売る商売を始める。娘を守りたい母と成長した娘の葛藤、そして母の無償で美しい愛が神話のような幻想的な映像美を持って描かれる。



エリアナ エリアナ Eliana, Eliana
 2月6日(日)14:00 2月10日(木)19:00
 2002年 / 35ミリ / カラー / 83分 / インドネシア / 日本語字幕付き / 監督:リリ・リザ / 出演:ラケル・サイディナ、ヤヤン・C・ヌール
 母親に反発してジャカルタに出てきたエリアナは、友人のヘコと一緒に暮らし始める。5年後、エリアナのアパートを母親が訪れ田舎に帰ろうと説得する。二人は次第に本音で語り始める。ガリン・ヌグロホの門下生とも言える若い世代の注目監督リリ・リザ作品で、すれ違いを続ける母と娘の一夜の会話が描かれ好評を博した。



タリ一映画特集

不知火海
 1975年 / 16ミリ / カラー / 154分
 青林舎 / 監督:土本典昭
 2月17日(木)18:30
 2月26日(土)17:00
 様々な要因で被害者救済が遅れた水俣病。水俣病問題の初期から取材を続け、様々な角度で切り取りながら作品として発表し続けた土本典昭の「水俣シリーズ」の一つの到達点ともいべき作品がこの「不知火海」である。



アントニー・ガウディー
 1984年 / 35ミリ / カラー / 72分
 勅使河原プロダクション / 監督:勅使河原宏
 2月19日(土)17:00
 2月25日(金)14:00
 スペインの建築家にして芸術家のアントニー・ガウディーの建築作品をカタローニャ地方の風土、バルセロナの歴史や文化を背景に紹介している作品。監督の勅使河原宏は木下恵介やドキュメンタリー作家の亀井文夫に師事し、また芸術大学出身で日本の戦後前衛芸術運動にも参加しており、本作のような美術映画もいくつか手がけている。



全身小説家
 1994年 / 35ミリ / カラー / 156分
 疾走プロダクション / 監督:原一男
 2月20日(日)14:00
 2月24日(木)14:00
 小説家・井上光晴の姿を追った原一男の長編ドキュメンタリー。インタビュを中心とする従来のドキュメンタリー映画の手法で描かれた部分と「イメージ篇」と名付けられた一種のドラマ部分とが交錯した構成になっており、井上自身が語る虚実入り交じった「井上光晴」像が描かれていく。



旅するパオジャンフー
 1995年 / 35ミリ / カラー / 94分
 SONY / 監督:柳町光男
 2月20日(日)11:00
 2月23日(水)14:00
 「さらば愛しき大地」などで知られる映画監督・柳町光男が台湾のパオジャンフー(大道芸を披露しながら薬を売る一座)の家族に取材したドキュメンタリー。家族で構成された新威殿一座の長男ホアンが他のパオジャンフーの人々との出会いなどを通して、一座を継ぐ決心をするまでを追っている。



SELF AND OTHERS
 2000年 / 16ミリ / カラー / 53分
 ユーロスベース / 監督:佐藤真
 2月18日(金)19:00
 2月26日(土)11:00
 1983年に36歳の若さで亡くなった写真家、牛腸茂雄。写真集「SELF AND OTHERS」は彼が身近な人たちのポートレートなどを中心に編纂したものだ。その中で牛腸が被写体に向けた眼差しを、「阿賀に生きる」などで知られるドキュメンタリー監督の佐藤真が映画の中に再現しようと試みた作品。



2月上映スケジュール

Schedule

1	火	休館日	
2	水	【14:00】囚われの美女	
3	木	【14:00】オペラ・ジャカルタ	【19:00】母
4	金	【14:00】チュッ・ニャ・ディン	【19:00】ナガ・ボナル將軍
5	土	【11:00】青空がぼくの家	【14:00】一切れのパンの愛
6	日	【11:00】囁く砂	【14:00】エリアナ エリアナ
7	月	休館日	
8	火	休映日	
9	水	【14:00】青空がぼくの家	
10	木	【14:00】ヌサ・プニダ島	【19:00】エリアナ エリアナ
11	金(祝)	【11:00】囚われの美女	【14:00】オペラ・ジャカルタ
12	土	【11:00】ナガ・ボナル將軍	【14:00】チュッ・ニャ・ディン
13	日	【11:00】一切れのパンの愛	【14:00】囁く砂
14	月	休館日	
15	火	休映日	
16	水	【14:00】東京オリンピック	
17	木	【14:00】三里塚 辺田部落	【18:30】不知火海
18	金	【14:00】安心して老いるために	
19	土	【11:00】海壁 / ルポルタージュ・炎	【14:00】恋の羊が海いっばい / あるマラソンランナーの記録
20	日	【11:00】旅するパオジャンフー	【14:00】全身小説家
21	月	休館日	
22	火	休映日	
23	水	【14:00】旅するパオジャンフー	
24	木	【14:00】全身小説家	【19:00】恋の羊が海いっばい / あるマラソンランナーの記録
25	金	【14:00】アントニー・ガウディー	【19:00】海壁 / ルポルタージュ・炎
26	土	【11:00】SELF AND OTHERS	【14:00】安心して老いるために
27	日	【11:00】三里塚 辺田部落	【14:00】東京オリンピック
28	月	休館日	



日本の戦後ドキュメンタリー

戦後の日本ドキュメンタリー映画で最初に注目を集めたドキュメンタリー作家の一人に岩波映画から登場した羽仁進がいます。「教室の子供たち」などで注目を集めた彼は、その後、「不良少年」などで劇映画へ進出することになります。天才といわれた羽仁進の登場はドキュメンタリーだけではなく、劇映画の分野も含めて当時の映画界に少なからぬ影響を与え、この羽仁進の活躍などに刺激され、岩波映画の若いスタッフを中心とした「青の会」が結成されることとなります。この「青の会」は小川紳介や土本典昭、黒木和雄、東陽一といった監督だけではなく、鈴木達夫や田村正毅といったカメラマン、録音の久保田幸雄などもいました。

ほぼ同時代でありながら、岩波映画の系譜とは異なる作家として登場するのが、勅使河原宏です。学生時代から前衛芸術に興味を持ち、岡本太郎の家に出入りして、そこに集まった若い前衛芸術家達とも交流があった彼は、あるきっかけから映画に興味を持って日本を代表するドキュメンタリー作家の一人である亀井文夫に師事します。この亀井の他に木下恵介にも師事した勅使河原は、美術映画などを手がける一方で劇映画にも進出、安部公房原作の一連の作品で注目を集めることとなります。

50年代から70年代にかけて登場するこうしたドキュメンタリー作家達の動向は、当時の社会運動や芸術運動といった様々な「運動」を強く意識していることに特徴があります。

そして土本典昭や小川紳介といったドキュメンタリスト達が水俣問題や三里塚闘争といった社会運動の中に入り、その中で生きる人々の「個」と対峙していくことで「運動」としてのドキュメンタリーの限界と新しいドキュメンタリーの可能性を模索していくこととなります。「不知火海」や「三里塚辺田部落」といった作品が社会問題、社会運動を背景として持ちながら描かれています。

これに対し、80年代以降に注目を集めるドキュメンタリー作家は運動ではなく、被写体である「個」との対峙、そして被写体と表現者である自分との関係性の中に新しいドキュメンタリーのあり方を模索していきます。「ゆきゆきて神軍」や「全身小説家」の原一男や「阿賀に生きる」「SELF AND OTHERS」の佐藤真などがこうした新しいドキュメンタリーの流れを受け継ぐ代表的な作家といえるでしょう。

マイケル・ムーアの登場などでドキュメンタリー映画は近年、注目を集めつつあります。また日本にも古くから優れたドキュメンタリーが多くあり、現在でも様々なドキュメンタリーが作られています。当館にも日本のドキュメンタリー映画の秀作が数多く収蔵されており、今の特集のようにこうしたドキュメンタリー映画の企画上映も行っています。是非この機会に日本のドキュメンタリー映画史に残る秀作をご覧ください。

山本 宰
(映像調査員)

インフォメーション

シネラニュース送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成17年3月号～平成17年4・5月号までの郵便切手(90円×2ヶ月)を同封の上、下記宛先へお申込ください。
宛先:〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術室の営業時間の変更について

4月から、ビデオ編集技術室の営業時間は、水曜日～土曜日までは13時から19時まで、日・祭日は10時から18時までとなります。また、月曜日・火曜日は休みとなります。
詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

公共交通機関ご利用のお願い

駐車場は図書館利用者の共用であり、映像ホール専用の駐車場はありません。駐車スペースに限りがあり、常時混雑しておりますので長時間の駐車はご遠慮ください。できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。土日祝日のご利用や1日に複数回の映画をご覧いただく場合などは、特にご協力をいただきますようお願いいたします。



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄:
西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス:
天神～都市高速経由～福岡タワー南口
(所要時間:昼間で約20分)

博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口
(所要時間:昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話:733-3333)に直接お問い合わせください。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là 福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609
福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>